

スタンダードチャータードPLC 2015年度中間決算報告

2015年度上半期業績ハイライト

- グループ自己資本比率強化策が前進
- 2015年度上半期業績は、バランスシートの強化・事業等のリスク軽減に向けた積極的な経営施策・マクロ経済要因を反映
- 上半期営業利益は 84 億 9,500 万米ドルで、2014 年度同期(92 億 7,400 万米ドル)比 8%減
- 営業費用(規制関連コストを除く)は前年同期比 4%減。為替変動・関連事業売却・規制関連コストの影響を除くと、概ね横ばい
- 減損費用は、インドにおける同費用増・世界的なコモディティ価格安を反映して、総額 17 億米ドルと高水準で推移
- 税引き前利益は 18 億 2,400 万米ドルで、前年同期(32 億 7,300 万米ドル)比 44%減
- 普通株式等 Tier 1 資本比率は 11.5%で、上半期に 80 ベースポイント増加
- 健全な流動性比率・レバレッジ比率を反映して、盤石なバランスシートを堅持
- 通期業績予測・見通しを反映して 2015 年度上半期配当を見直し、2015 年 6 月 30 日までの 6 か月を対象とする中間配当額は 1 株当たり 14.40 米セントに変更(前年同期比 50%減)

スタンダードチャータードPLC(本社:ロンドン、最高経営責任者:ビル・ウィンターズ)は、8月5日付で、2015年度中間決算を発表しました。上半期業績には、バランスシートの強化および事業関連リスク軽減に向けた積極的な経営が反映されています。これらの経営努力にもかかわらず、マクロ経済要因の影響やコモディティ価格の軟化、資産価格の低下が相まって、上半期決算は不本意なものとなりました。当行グループは、新興国通貨安(対米ドル)の影響も受けました。

当行グループは業績問題を認識しており、2015年末までに今後の長期戦略計画を発表する予定です。また、長期的に安定し、厚みのある顧客層に支えられた健全な市場を、引き続きその事業基盤としてまいります。

上半期業績

上半期営業利益は 85 億米ドルで、前年同期比 8%減となりました。為替変動、関連事業売却、時価評価が減益の主な理由でした。

営業費用(規制関連コストを除く)は前年同期比 4%減でしたが、為替変動・関連事業売却の影響を除くと、概ね横ばいとなりました。規制関連コストは引き続き上昇傾向にあり、上半期は前年同期比 60%増の 4 億 5,300 万米ドルを計上しました。

減損費用総額は、2014 年度下半期比で 15%増の 17 億米ドルでした。そのうち貸倒関連クレジットコストは、前年同期比 95%(8 億 600 万米ドル)増の 16 億 5,000 万米ドルとなりました。主な原因は、インドにおける同費用の増加、および世界的なコモディティ価格の下落でした。

調整後の税引き前利益は前年同期比 44%減の 18 億万米ドル、調整後の 1 株当たり利益は 50%減の 48.7 米セント、調整後の自己資本利益率(ROE)は 5.4%でした。

配当見直し

上半期決算を受けて、当行グループ取締役会は 2015 年度中間配当額を 50%減の 14.40 米セントに変更することを決定しました。配当見直しは、現状での業績予測・見通しをより正確に反映しています。また、配当見直し後の配当性向は当行グループが進める自己資本比率強化策と整合性のあるものとなりました。取締役会は、2015 年度最終配当についても同様の調整を行う予定です。

経営施策

当行グループは、以前から掲げている経営方針に沿って、自己資本比率の強化および長期持続的な利益率向上の達成を優先的に進めています。具体的施策は次のとおりです。

- リスク加重資産の積極運用・ポートフォリオのリスク軽減・より厳選した新規事業開拓
- 経常費用の徹底管理(3年間で18億米ドル規模の持続的なコスト削減を目指す経営指針の一環として、2015年度の4億米ドル強の削減予定につき順調に遂行中)グループ戦略の非主力事業からの撤退
- 前年同期比で著しい業績の回復を見せた韓国での事業再構築

これらの経営施策の結果、普通株式等 Tier 1 資本比率は、上半期に 80 ベースポイント改善して、11.5%に達しました。これは、当初 2015 年末に 11~12%台を達成するという目標を半年早く実現したことを意味します。

当行グループのバランスシートは、健全な流動性比率およびレバレッジ比率を反映して、盤石です。預金残高は、上半期中に 6%(300 億米ドル)減少しました。

顧客向け貸付金は、上半期中に 2%(60 億米ドル)減少しました。その結果、預貸率は現在 72.6%となっています。流動資産比率は 31.4%です。

戦略的指標

グループ最高経営責任者ビル・ウィンターズが率いる経営陣は、業績問題を認識しており、2015 年末までに今後の長期戦略計画を発表する予定です

当行グループの強みの堅持・発展、重要分野への取り組みの強化のために、経営陣は以下の点を重視しています。

- **利益率** : 資本コストを上回る利益率の達成
- **組織構造** : 組織変更によるコスト削減推進・意思決定の簡素化・業績全般に関する説明責任の強化
- **資産の質** : 常に受容可能な利益率を生み出す資産を重視
- **資本** : 経営施策の結果、普通株式等 Tier 1 資本比率は、上半期に 80 ベースポイント改善して、11.5%に達しました。結果として、当初 2015 年末に 11~12%台を達成するという目標は半年早く実現されました。当行グループは、資本比率目標の達成・維持とともに、資本の持続的な調達能力も重視してまいります。

当行グループは、十分な自己資本比率の維持・資本コスト以上の利益率の実現・効果的な組織構築・競争優位性の積極活用に力を入れていきます。

なお、2016 年 1 月にマーク・スミスが当行グループの最高リスク管理責任者(CRO)に就任することが決定しておりますので、決算発表とあわせて報告いたします。グループ最高経営責任者ビル・ウィンターズの直属となる CRO は、当行全体のクレジットリスク、マーケットリスク及びオペレーショナルリスクを管轄します。

まとめと見通し

厳しい上半期となりましたが、当行グループは、その進出先の変わることのない中長期的な可能性を引き続き活かしていきます。取締役会と新経営陣は、長期にわたって株主利益の最大化を可能にする経営を追求します。

詳細につきましては、下記の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Global Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7151
Jon Tracey, Global Head of External Communications +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

広報部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9312

ca.japan@sc.com

スタンダードチャータード

スタンダードチャータードはロンドン証券取引所、香港証券取引所、ムンバイ証券取引所、ならびにインド国立証券取引所に上場し、約90,000名の行員を擁する国際的な金融グループです。世界で最も活気に満ちた市場ーアジア・アフリカ・中東地域において150年以上の歴史を誇り、ダイナミックな投資や貿易、そして資産形成を行うお客様を対象に、ビジネスを展開しています。グループの収益の約9割は、それらの地域で創出されています。私たちのブランドプロミスである「Here for good」は、このような当行の伝統と企業価値を反映しています。

日本におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜に初めて駐在員事務所を開設した1880年にさかのぼり、今年で135年目を迎えます。日本の企業法人・金融法人のお客様向けに、多岐にわたる金融サービスを提供し、さらなる成長を続けています。

スタンダードチャータードグループHP(英語) <http://www.sc.com>

スタンダードチャータードグループfacebook(英語) www.facebook.com/standardchartered

スタンダードチャータードグループTwitterアカウント @StanChart

スタンダードチャータード銀行在日支店HP(日本語) <http://www.sc.com/jp>

スタンダードチャータード銀行在日支店HP(英語) <http://www.sc.com/jp/en/>